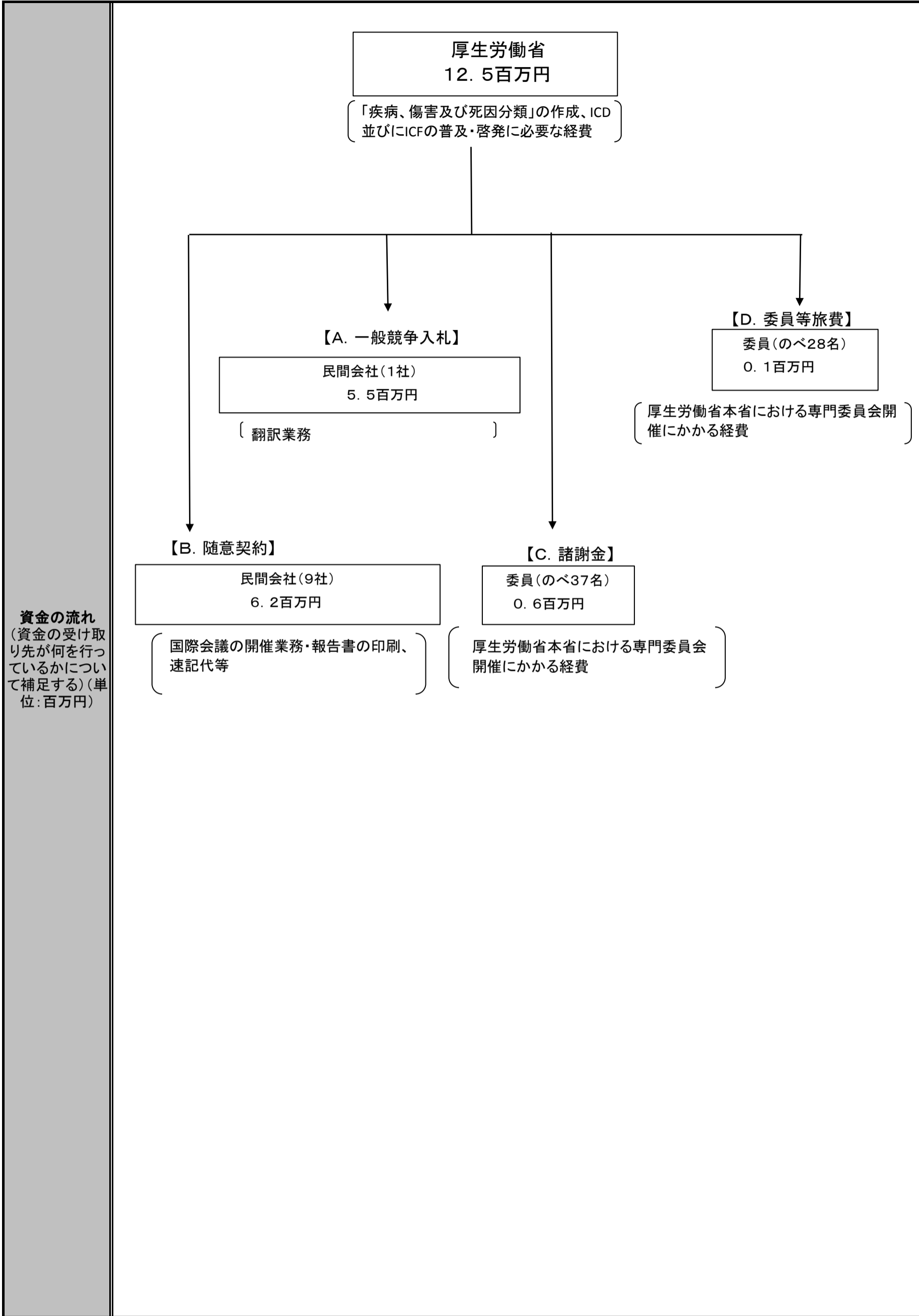


平成23年行政事業レビューシート (厚生労働省)								
事業名	疾病死因分類適正化等調査費		担当部局	大臣官房統計情報部		作成責任者		
事業開始・終了(予定)年度	昭和31年度		担当課室	企画課国際分類情報管理室		室長 瀧村 佳代		
会計区分	一般会計		施策名	-				
根拠法令 (具体的な条項も記載)	統計調査に用いる産業分類並びに疾病、傷害及び死因分類を定める政令第3条		関係する計画、通知等	人口動態統計、患者調査、社会医療診療行為別調査、社会保険診療報酬等の医療保険施策				
事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	1. WHOが勧告したICD(疾病及び関連保健問題の国際統計分類)の改訂・改正に関するWHO-FIC(WHO国際分類ファミリー)ネットワークによる国際的な寄与及び日本への適用と普及。 2. WHOが勧告したICF(生活機能分類)の改訂・改正に関するWHO-FICネットワークによる国際的な寄与及び日本への適用と普及の検討。							
事業概要 (5行程度以内。別添可)	1. 社会保障審議会統計分科会「疾病、傷害及び死因分類専門委員会」「生活機能分類専門委員会」の開催。 2. ICD及びICFの改訂・改正についての国際会議の開催、WHO-FICネットワークへの意見提出及び同ネットワークの国際会議(電話会議を含む)出席。 3. ICD並びにICF普及啓発本の刊行。							
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 業務委託等 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 貸付 <input type="checkbox"/> その他							
予算額・執行額 (単位:百万円)		20年度	21年度	22年度	23年度	24年度要求		
	予算の状況	当初予算	19	18	23	21	37	
		補正予算						
		繰越し等						
		計	19	18	23	21	37	
		執行額	18	17	12			
	執行率(%)	94.7%	94.4%	52.2%				
成果目標及び成果実績 (アウトカム)	成果指標			単位	20年度	21年度	22年度	目標値 (年度)
	ICD並びにICFの普及啓発本の刊行。		成果実績	-	-	-	-	-
			達成度	%	-	-	-	
活動指標及び活動実績 (アウトプット)	活動指標			単位	20年度	21年度	22年度	23年度活動見込
	1. 「疾病、傷害及び死因分類専門委員会」「生活機能分類専門委員会」の開催。 2. ICD及びICFの改訂・改正についての国際会議の開催、WHO-FICネットワークへの意見提出及び同ネットワークの国際会議(電話会議を含む)出席。		活動実績 (当初見込み)	-	-	-	-	-
				-	-	-	-	
単位当たりコスト	-		(円/ -)	算出根拠	-			
平成23・24年度予算内訳	費目	23年度当初予算	24年度要求	主な増減理由				
	(目)諸謝金	2.2	3.0	WHO-FIC協力センターとしての業務に必要な経費に係る増要求				
	(目)委員等旅費	0.5	0.8					
	(目)厚生労働統計調査費	18.0	33.6					
	1 印刷製本費	1.4	1.6					
	2 通信運搬費	0.4	0.5					
	3 会議費	0.0	0.1					
	4 借料及び損料	1.1	1.5					
5 雑役務費	15.1	30.0						
計	20.8	37.3						

事業所管部局による点検			
	評価	項目	特記事項
目的・予算の状況	○	広く国民のニーズがあり、優先度が高い事業であるか。	
	○	国が実施すべき事業であるか。地方自治体、民間等に委ねるべき事業ではないか。	
	○	不用率が大きい場合は、その理由を把握しているか。	
資金の流れ、費目・使途	×	支出先の選定は妥当か。競争性が確保されているか。	一般競争による翻訳業務委託先の資質が低いことにより、点検・見直し作業が膨大なものとなり、予定していた委託業務のうち一部のみで取りやめたことにより、不用率が大きくなった。23年度はこのようなことがないよう、業務委託に万全を期す予定である。 なお、随意契約については会計法令上認められている少額の随意契約である。
	-	単位あたりコストの削減に努めているか。その水準は妥当か。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	-	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	
活動実績、成果実績	○	他の手段と比較して実効性の高い手段となっているか。	
	○	適切な成果目標を立て、その達成度は着実に向上しているか。	
	-	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	
	-	類似の事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担となっているか。	
	○	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	
点検結果	23年度の業務委託については、仕様書を見直し、翻訳テスト及び当該事業に関するレポート作成を課し、委託先の選定に慎重を期した。		
予算監視・効率化チームの所見			
現状通り	疾病死因分類適正化等調査費については、ICD(疾病及び関連保健問題の国際統計分類)に基づく、日本における「疾病、傷害及び死因分類」の作成及びICDの普及・啓発等、並びにICF(国際生活機能分類)の日本への適用について検討するために必要な経費である。また、執行の観点からは、委託先の資質の問題により委託業務を一部のみで取りやめたことにより不用額が発生しているが、今後は、業務委託に万全を期すとともに、引き続き効率的な執行に努めること。		
上記の予算監視・効率化チームの所見を踏まえた改善点(概算要求における反映状況等)			
-			
補記(過去に事業仕分け・公開プロセス等の対象となっている場合はその結果も記載)			



資金の流れ
 (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:百万円)

A.			E.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
雑役務費	資料翻訳	5.5			
計		6	計		0
B.			F.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
雑役務費	国際会議同時通訳等	3.2			
計		3	計		0
C.			G.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
計		0	計		0
D.			H.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
計		0	計		0

費目・使途
 (「資金の流れ」
 においてブロックごとに最大の
 金額が支出されている者について
 記載する。費目と使途の双方
 で実情が分かるように記載)

支出先上位10者リスト

A.

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	株式会社 プロスパー・コーポレーション	平成22年度世界保健機関(WHO)国際疾病分類(ICD)改訂等に係る翻訳補佐業務	5.5	7	61.4
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					

B

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	オスカー・ジャパン(株)	内科TAG国際会議等の同時通訳、会議運営等	3.2	随意契約	
2	統計印刷工業(株)	ICDのABC(平成23年度版)の印刷	0.9	随意契約	
3	(株)東京国際フォーラム	内科TAG国際会議 会議室代	0.6	随意契約	
4	株式会社エージーエーコーポレーション	ICFシンポジウムに係る要約筆記	0.6	随意契約	
5	郵便事業株式会社	ICD解説書等発送費	0.3	随意契約	
6	大和総合印刷(株)	内科TAG国際会議 報告書 印刷	0.2	随意契約	
7	扶桑速記印刷(株)	社会保障審議会統計分科会ICD専門委員会、ICF専門委員会 速記	0.2	随意契約	
8	統計印刷工業(株)	ICFシンポジウム報告書の印刷	0.1	随意契約	
9	(株)光玄社	ICFシンポジウム開催に係る照明・音響操作業務	0.1	随意契約	
10	(株)マスト	社会保障審議会統計分科会ICD専門委員会、ICF専門委員会 お茶	0.0	随意契約	

C

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	ICD及びICF専門委員	社会保障審議会統計分科会ICD専門委員会、ICF専門委員会 諸謝金	0.6		
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					

D

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	ICD及びICF専門委員	社会保障審議会統計分科会ICD専門委員会、ICF専門委員会 委員等旅費	0.1		
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					